

大学合唱団運営セミナーに参加して

～大切な学びの機会～ 全日本合唱連盟

男声合唱団コール・グランツ団内指揮者
『おんがく広場』編集委員(フツキー会)

たかはる
野口享治

今年も東京では平均値日より早い桜の開花宣言となり、各大学では葉桜のもとでの入学式となりそうな気配のもと、大学サークルにとっては久しぶりに充実した**新歓の季節**となりそうな予感や期待に満ちあふれているのではないのでしょうか。



このような時期に合わせるように3月13日(月)、全日本合唱連盟による「合唱団運営セミナー第3弾」が開催され、リアル、オンライン受講あわせて100人強の方が参加されました。講師は伊東恵司氏(元大学合唱団新歓委員長)、山脇卓也氏のお二人でした。

新歓ってなに？

ところで、「新歓」とは「新入生歓迎」の活動や歓迎会などのことです。大学のクラブ活動は学生主体の自主的なものです。高校の場合は指導者(先生)が中心になっており、要は先生次第です。先生が転任してしまうとガラリと変わってしまうのはこのためです。大学ではすべてを学生自ら決定し、選択できます。その分だけ自主性がないと窮地に陥ってしまいます。

近年、大学合唱団では、長引くコロナ禍で活動ができず、運営のノウハウが引き継がれないという悩みが多いなか、人数減少やさまざまな個人負担の増大から活動休止に至ったニュースを数多く聞くようになりました。

全日本合唱連盟ではこの現実を直視し、課題形成するなかで「大学合唱団の運営の負担をサポートしたい!」と、運営の基本をまとめたコンテンツを作成し、学生のみなさんが運営しやすいノウハウをまとめ、提供していこうという試みを続けています。

今回のセミナーは、これまでの「演奏会を開催する」、「お金を管理する」に続く第三弾となるもので、「さあ新歓大作戦! (どうやって人を集めるか)」、「練習はこんなふうにしよう! (見学者を練習で飽きさせないために)」がテーマでした。

学生のみなさんはもちろん、大学合唱団に所属していたOB・OGのみなさん、社会人合唱団で合唱を楽しむみなさんにとっても、「新たな気づき」につながる内容ではないかと思えます。

(過去のセミナー動画はこちら↓)

<https://jcanet.or.jp/Public/daigaku-seminar.htm>

OB・OG会も学びの機会の支援を

現在の大学合唱団員としては、OB・OG会幹事メンバーが「些細なこと」「こんなことは当たり前のこと」と思い込んでいることが案外問題で、組織の弱体、活動休止につながっています。

かつては先輩の姿をみて学ぶ「OJT」という学びの機会と、個々人の得意・不得意をカバーしあう「支え合い」で団員のマネジメント力の育成がなされていました。「今の団員はマネジメント能力がない」の一言で片付けることなく、「学びの機会」を直接的、間接的に支援していくこともOB・OG会の大切な役割のひとつになると考えます。

自団体の運営マネジメント力をチェック

大学合唱団にかかわらず、まずこれを機に社会人合唱団でも自分の団の「人材マネジメント力」を振り返ってみてはいかがでしょうか? 意外な気づきがあるかも知れません。

- 団員募集のツールは揃っていますか? 最新版になっていますか?
- 入団希望者の属性を事前に把握していますか?
- 練習への出欠連絡は明確になっていますか?
- 練習開始や終了時間がルーズになっていませんか?
- 入団希望者の属性にあわせた短めの演奏曲のレパートリーを複数もっていますか? それは暗譜でしっかりと歌えますか?
- 入団希望者、入団者をひとりぼっちにさせていませんか? 練習中、練習後の声かけをしていますか?
- 新しい団員が安心して合唱を楽しむことができるしくみはありますか? 機能していますか?(パートリーダー制、ブラザー・シスター制度など)
- 練習、イベントスケジュールは明確ですか? 事前に団員と共有されていますか?

つぎに「合唱団運営セミナー第3弾」を詳しく紹介します。

【セミナーのエッセンスご紹介】

【テーマ1】 さあ新歓大作戦！！ (どうやって人を集めるか)

■大学合唱団の現状と位置づけを理解する

〈脅威〉コロナ禍で現在大学合唱団の3割が活動休止、大学合唱人口の4割が減少

〈弱み〉自ら勧誘しないと人は集まらない(決して買い手市場ではない)

〈強み〉減少したとは言え、現在も合唱サークルは意外と母集団が大きくマイナーではない。

(例：母集団規模は以下のとおり)

体育系部活 < 吹奏楽・演劇部 < 合唱サークル

〈機会〉コロナ制限が一段落し、どの学生も何らかのコミュニティーに属したいという気持ちの揺り戻しが見込み大

■ターゲットをカテゴライズする

まず新入生(在校生)に、どんな人がいるのか分類する

- 合唱経験者：高校でバリバリやっていた人、活動に少し残念に感じていた人など
- 吹奏楽経験者：大学で吹奏楽の晴れ舞台を求めている人など
- ピアノ経験者：習いごととしてピアノを続けない方向性の人など
- 初心者：最大のターゲット。合唱は大学から始められるクラブサークルの代表格。

■新歓の心構え

①積極性が必要：合唱団員のなかには「シャイな人」「人任せにしてしまいがち」な人も多い。
→就職活動の練習としてコミュニケーションスキルをあげよう。

②マーケティング戦略が必要：カテゴライズしたターゲットごとに、相手や状況で戦略を変える。

- サークルに求めていることは何か？
- タイプや人柄の違い
- 状況(下宿、自宅生、遠距離通学者など)

③魅力を伝える

- 合唱活動そのものの魅力
- 仲間と取り組むことの魅力
- 裏方を含めたソーシャルスキル獲得のチャンス など

④人間関係をつくる

- 時間(昼食、夕食、空き時間、休日など)
- 手段(メール、LINE、ZOOM、対面など)

■新歓の流れを理解する

(宣伝・勧誘→練習見学→仮入団・入団)

宣伝では：団の存在を知ってもらう

(ツールと機会例)

- サークル冊子で／新歓イベントで／SNSで／知り合いに聞いて／道ばたで／声かけられて

* チラシは捨てられてゴミになる可能性が高い。最近は、名刺(QRコード、顔写真入り)を活用する団体もいる

〈ポイント1〉

- とにかく数(人数)当たりましょう。

〈ポイント2〉

- 積極的に行こう→チラシ渡すだけでは宣伝にならない。活動の魅力、イベントについて話し連絡先を交換しよう

〈ポイント3〉

- 複数人で行こう→宣伝が得意な人と不得意な人で組んで、複数人の団員で話しかけよう

〈ポイント4〉

- 上手なSNSの使い方をしよう→「キャッチーな言葉でアピール」「練習やイベント(オンライン説明会など)もカレンダーにして掲載」



勧誘では：事前の準備と役割分担を明確化

- ①きっかけをつくる：お食事会、ZOOM会で会話の場面を増やす
- ②こまめに連絡をとろう：個々人に寄り添う言葉とコミュニケーション(たとえLINEでも)
- ③管理しよう：やりっぱなしはダメ。勧誘者リスト(名前、ふりがな、備忘メモ、入団進捗、学部、ターゲットのカテゴライズ、練習やイベント日の参加状況などを見える化)を作成し、関係者で共有、全体でフォロー

仮入団・入団後は：こまめなフォローで安心感をあたえる／目標を共有しよう／居場所、役割を与えよう(場合によっては組織へ取り込んでいく)



【テーマ2】 練習はこんなふうにして (見学者を練習で飽きさせないために)

「興味をもってもらう」「体験してもらう」の2つのプロセスからアプローチ

■興味をもってもらう

- **アイスブレイク**※…いきなり練習ではなく、お菓子を食べたりして会話する時間をもつ

(※人と人のわだかまりを解いたり、話し合うきっかけをつくるためのゲームやクイズ、運動などのこと)

- **入団したいと思えるようなパフォーマンスが大切**：以下のような練習をみせるのはよくない。

- ・ぐだぐだの練習スタート(しまりがいい)
- ・ぐだぐだの練習水準

顔が暗い、姿勢が悪い、選曲が悪い(下手な難しい曲より上手で簡単な曲を)、楽譜を読みふける(暗譜で歌える曲を)、並び方が美しくない、部屋が汚いなど)

- 自分たちのより良い演奏を聴いてもらう(合唱や声楽そのものに興味を持ってもらう)
- 上手な団の演奏会へ連れて行く
- 扱う曲の上手な演奏をYouTubeで聴く

■体験してもらう

- ① **まず声を出す**：腹式呼吸／移動ド など
- ② **声にこだわらず歌ってみる**：短い曲(長い曲の場合、一番だけなどの工夫を)／音域にムリがない／知っているメロディーがでてる／音取りがしやすい曲
- ③ **カデンツ、カノンを取り入れた練習**

〈ポイント1〉

- 団員がつきっきりでサポートしよう
- 新入生はできる限り前列へ
- パート内で**担当をきめておく**：「いつも教えるくれる先輩」と思ってもらえる団員になる／担当者を中心に必ず団員が近くで見守る

〈ポイント2〉

- 練習の**段取りとボキャブラリー**を用意しておく
- 苦手なら(見せる)練習の**リハーサル**をすること
- 新入生がスムーズに楽しめるよう**入念な準備**を

〈ポイント3〉

- **発声練習の内容や基礎練習で扱うカデンツ、カノン**に関して準備しておく
- **技術系**で相談する
- **先生(指揮者、ボイストレーナーなど)のアドバイス**を受ける

〈ポイント4〉

- 場所を工夫する(響きのよい場所…教会、学内ホールあるいはその他のホールなど)

〈ポイント5〉

- 指導者にきてもらう

〈ポイント6〉

- 練習後のコミュニケーション、アフタケア：メール1本でもいい「今日きてくれてありがとう」や「次の練習来ることができるときの声かけも考え、工夫し、相談しながら新歓を行う」

今回は京都の鴨沂会館^{おうき}で開催され、リアル受講、オンライン受講共に無料でした。また、後日、全日本合唱連盟のホームページに講習会の内容をブラッシュアップした動画コンテンツをYouTubeで公開し、後々、新歓担当者が代替わりしてもその動画を見れば基本的な運営方法が分かる、ということを目指しています。

また、全日本合唱連盟では、本セミナーの開催および後日公開する動画作成を支援するサポーターへの協力を呼び掛けています。動画コンテンツは多くの合唱団が使えるよう、普遍的な内容にする予定とのことです。

著者プロフィール ^{たかはる}野口享治



邦人作曲家への委嘱活動を中心に活動してきた某大学合唱団のOB。現在は男声合唱団コール・グランツ(団内指揮者・ヴォイストレーナー)をはじめ、主に埼玉県内で各種合唱団活動に参画している。

ボイスケアコンクールから生れた ゴスペラーズとの共演

音楽大学と共同で開発した「ボイスケアのど飴」の企業が昨年主催した歌唱動画によるコンクールで最優秀賞となった合唱部が、ア・カベラグループ「ゴスペラーズ」と共演しました。そして、その模様がドキュメンタリーとして公開されています。

最優秀賞に輝いた愛知県立豊田東高校合唱部は、部員も少なく、コロナ禍での苦しい活動を乗り越え、ゴスペラーズとともに「永遠に」を歌うことができました。夢を叶えた高校生の活躍と素顔をご覧ください。

ボイスケアコンクール特設サイト

https://kanro.jp/blogs/campaign/voice_contest_result/